

①むかしの道路

左の絵ちずは江戸時代のころの釜子じんやです。このころの釜子地方は、えちご（新潟県）高田はんの分領だったのです。

絵ちずをみてわかるように、今の役場前や大黒町には家は1けんもみあたりません。

北から南に通っている道はいばらぎ街道、またひたち太田街道ともいいました。

また絵ちずにある白川道もいばらぎ街道とよんでいました。

「釜子道中記」によると、釜子じんやのあったころ高田はんし(ぶし)のおぐらしげひろという人が、遠くえちごの高田からおとも2人をつれ、かごにのってこの白川道を通してじんやに来ています。

北から南に通っているいばらぎ街道は、矢吹の中畑新田で奥州街道からたなくら道に分かれ、中畑宿を通してなめずで馬をつぎ、川原田宿をすぎてあぶくま川をわたったのです。あぶくま川にはいま常陸橋がかかっていますが、このころは舟でわたったと思われ、刈しき坂にあるかんのんどうの近くは、つじがはらとよばれて渡船場があったそうです。

こうしてそのころの東村に入ったいばらぎ街道は、北町のところで東の方にまわり道をして釜子宿に入っています。これは山があったからと考えられます。ついで若ぐり新田村をすぎ、伝馬宿場のつつみから棚くら城下へ出たのです。このいばらぎ街道は、このころ会津のとのさまのさんきんこうたいや、米を江戸へはこぶ大切な道路だったのです。